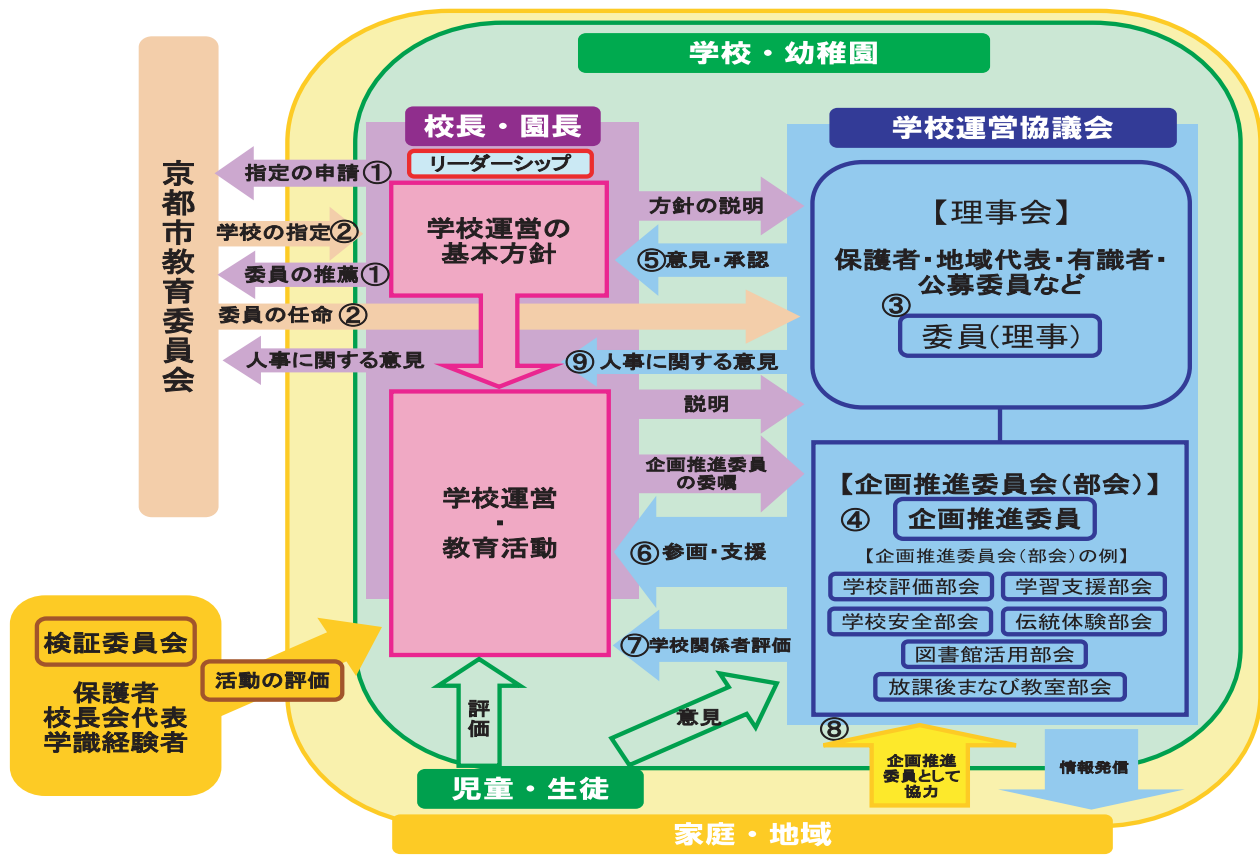


本市では、学校・家庭・地域が、一体となって「地域の子どもは地域で育てる」という基本理念のもと、学校運営協議会が学校の応援団となる制度設計を行い、多くの地域・保護者の方に学校運営に参画いただき、創意工夫溢れる取組が展開されています。ここでは、学校経営方針や予算の承認、学校関係者評価など、学校運営協議会が行う基本的な事項についても、分かりやすく図で示しましたので、今一度ご確認ください、学校によきご意見番、よき応援団となる仕組みとして、その充実を図っていただきますようお願いします。



- ①地域との信頼関係のもと、校長が学校運営協議会の指定を教育委員会に申請、委員を推薦。
- ②教育委員会が指定し、委員（理事）を任命。
- ③学校運営協議会は企画推進委員会（部会）について、校長と協議。
- ④校長は必要な企画推進委員会（部会）の企画推進委員を委嘱。
- ⑤学校運営協議会は、校長の学校運営の基本方針を承認。
- ⑥学校運営協議会の委員（理事）・企画推進委員は、学校運営に参画・支援。
- ⑦学校評価に関しては、学校の行った自己評価結果を学校関係者として評価（学校関係者評価）。
- ⑧学校のいい面を伸ばし、不足している点については改善策を明らかにし、学校とともに実践。
- ⑨教員公募等人事に関する意見について校長と協議。

編集後記

京都市では、委員（理事）による学校経営の基本方針の承認や学校関係者評価など、学校運営への参画を図る取組と、地域・保護者の皆様の企画推進委員会による学校支援活動を、学校運営協議会を推進する両輪として行っています。こうした中、各学校での取組の充実、活動の活性化に向け、このコミュニティ・スクール通信を少しでもお役立ていただければ大変うれしく思います。これからも実践事例等、多くの情報をお届けしていきたいと思っておりますので、皆様の学校の取組情報をどうぞお知らせいただきますようお願いします。

京都市教育委員会学校指導課
小中一貫教育・学校運営企画担当

京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町 488
電話 222-3801 fax 231-3117
http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-2-9-0-0_13.html

学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり ますます高まる学校運営協議会の役割

京都市の学校運営協議会は、平成22年3月末現在、163校に設置され、学校の応援団としての役割を重視した「京都方式」により、各学校で地域の特色に根ざした様々な学校支援の取組がなされています。

また、京都市における学校関係者評価の全校実施にあたり、学校運営協議会には、学校の自己評価に対する評価と学校改善に向けた支援策を検討する学校関係者評価の担い手の機能を持つことも強く期待されます。

今号では、「つなぐ学校評価」と題して学校関係者評価を含めた学校評価に関する千葉大学天笠茂先生のご講演を紹介します。

「つなぐ学校評価」

千葉大学教授 天笠 茂 氏

学校評価の目的は、『①学校としての組織的・継続的な改善』『②学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり』『③一定の教育水準の保証』の3点です。中でも『①学校改善』と『②連携協力』が大切です。

『学校としての組織的・継続的な改善』は、「学校をよくしていく」ためにそれを阻害する要因を学校評価で見つけ出すことであり、教職員と保護者・地域が顔を合わせて、学校・地域をよくするため学校評価の結果に基づいて何が言えるのかというやりとりがあれば、学校と地域をつなぐ機能を果たすことができます。そのことを明確にしているのが『学校・家庭・地域の連携協力により、学校づくりを進めること』であり、学校と保護者の関係が「協力」から「参加」へ、そして「参画」へと進んできている今日、学校評価を新しいマネジメント手法として活用することが問われています。

とりわけ、学校評価を機能させるためには、学校運営協議会に携わる方の学校評価に関する知見を深めるとともに、自己評価を行う教職員の学校全体（組織）を見つめる目が研ぎ澄まされることが大切であり、自己評価とそれを受け止める学校関係者評価をうまくセットすることにより、学校と地域が一段と深まっていきます。

※「子どもを共にはぐくむ未来づくり教育フォーラム in 京都」分科会（平成21年7月29日）
「協働・参画による学校運営協議会～学校関係者評価を生かした学校改善～ご講演から」



◆京都市における学校関係者評価

「学校関係者評価」は、学校の示した自己評価結果に対して、学校運営協議会委員など学校関係者で組織された評価委員会で、自己評価の客観性、妥当性について評価するものです。

とりわけ、京都市では、学校関係者が評価に関わるだけでなく、学校経営方針を踏まえた評価項目の作成段階から、日常の教育活動に積極的に参画し、当事者意識を持った評価、学校改善に向けた支援策の検討を行うなど、年間を通じて評価活動に関わっていただくことを目指しています。

学校運営協議会 一六三校に設置
学校関係者評価でさらなる学校改善を！

学校運営協議会に集まる地域の力！！

各校の実践を紹介

嵯峨中学校

（学校運営協議会設置日：平成19年6月6日 理事15名 企画推進委員12名）

日本の伝統や文化、自然と調和した文化財など地域の教育環境に恵まれた嵯峨中学校区では、地域ぐるみでの保幼小中一貫教育を進めるため「京都嵯峨学園」構想のもと、取組が展開されています。

学校運営協議会においても、校下3小学校の学校運営協議会との合同会合を行い、嵯峨中学校区の地域に暮らす子どもたちの「めざす子ども像」を共有するとともに、「地域の教育力の活性化を図る」という共通認識のもと、「京都嵯峨学園」としてのボランティア募集を行うなど小中一貫による取組が行われています。



また、嵯峨中学校の学校運営協議会独自の取組としても、3つの企画推進委員会（部会）を中心に、子どもたちの自己有用感を見出す体験である「嵯峨中パレード」への協力や地域の方を講師とした学力向上を目指した特別学習会の実施、「京都嵐山花灯路」での和太鼓演奏等郷土愛を育む地域行事への参加など、学校と地域が一体となって子どもたちを育む活動が展開されています。



池田東小学校

（学校運営協議会設置日：平成19年12月17日、理事15名、企画推進委員43名）



池田東小学校学校運営協議会は「地域の未来は地域の子どもたちを育てることにある」という地域の皆さんの熱い思いにより設立され、「体験活動を充実する地域ネットワークづくり」を基本構想として、多彩な活動が展開されてきました。とりわけ、4つの企画推進委員会（部会）では、地域の方々の積極的なご支援の下、見守り隊はもちろんのこと、校庭体験キャンプや「花背山の家」などにおける宿泊学習への心のこもったサポート、陶芸教室やお茶会、七草粥づくりや菊づくりといった伝

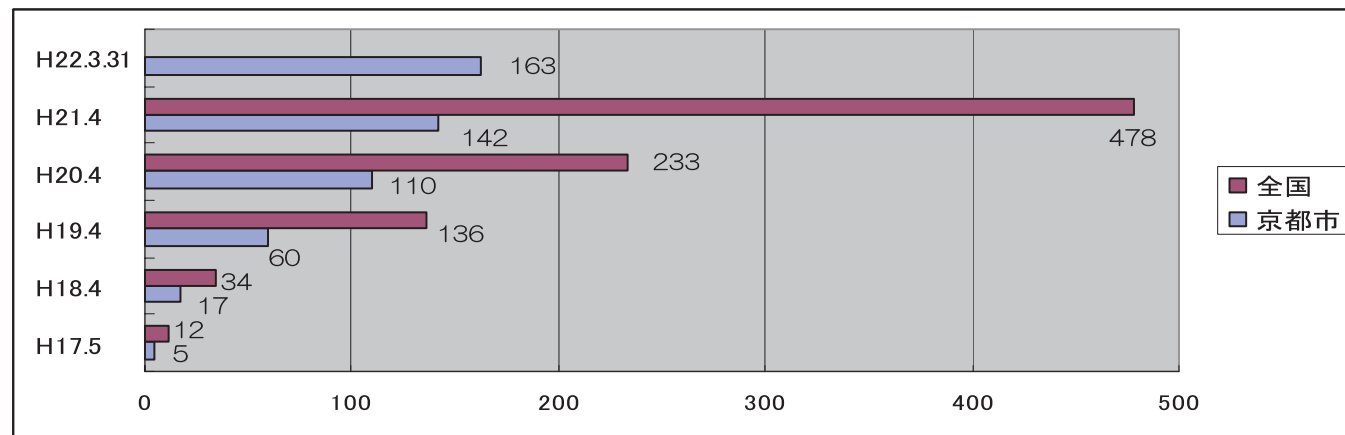
統文化等の体験、手作りでの芝生グラウンド（中庭ふれあい広場）の整備や手作りエコの取組（年末のイルミネーション）など「体験」をキーワードに様々な活動が行われています。また、理事会においても、保護者・地域のアンケート評価を基にした学校による自己評価結果に対する学校関係者評価も活発に行われています。そこでは、委員（理事）から学校運営に対する忌憚のないご意見をいただくとともに、そのご意見を学校運営に実際に生かす取組も行われるなど、池田東小学校では、「学校の応援団」としての機能と「学校のご意見番」としての機能がうまく調和した学校運営協議会の取組が推進されています。



データBOX

学校運営協議会設置校の推移（平成22年3月末現在まで）

京都市では、年々、学校運営協議会による学校支援の取組が着実に浸透してきており、平成22年3月末現在で、全国の約3割にあたる163の学校・幼稚園で設置が図られ、学校と家庭・地域が一体となって子どもを育むための活動が積極的に展開されています。



※ 平成22年度4月1日現在の全国設置数は、本誌作成現在では未発表の為に記入していません。

ワンポイント

京都市では、より見やすく、分かりやすい学校評価を行うため、「学校評価支援システム」として学校の魅力や課題が発見できる新しいアンケートの手法を推奨しています。この手法の活用により、学校関係者評価の担い手である学校運営協議会の委員の方々が、より明確に、各学校の魅力と課題を把握することができます。

【新しい学校評価支援システムの一例（重要度と実現度を軸として、評価結果を相対化した分布表）】

